

第 97 回定時株主総会 質疑応答要旨

当資料は、2020 年 6 月 19 日（金）に開催した当社第 97 回定時株主総会において出席者の皆様からいただいたご質問とその回答を要約したものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

【品質問題に対する対応策】

Q：19 年度は巨額の品質引当費用を計上していたが、今後の再発防止に向けての対応について知りたい。

A：お客様にはご迷惑をかけ、株主の皆様にはご心配をお掛けし申し訳ない。

複数の車両メーカー様、車種に使われていたため、かつてない規模のリコールとなってしまった。このような結果を招いたのは、会社としてのマネジメントに問題があったことを真摯に反省している。対策としては、技術・仕組み面では今年度の品質向上活動方針へ具体策を落としこみ活動を進めている。また、マネジメント・風土面では、「本音と言える。言ったら変わる」風通しの良い職場作りに向け、全社を挙げての活動を推進し、一年で会社を変え、品質のデンソーを取り戻し、お客様の信頼回復に不退転の決意で取り組む。

【新型コロナウイルスへのデンソーの取り組みと今後の業績見通し】

Q：新型コロナウイルスの影響に対し、社内での拡大防止対策やデンソーの社会的な責任の果たし方について説明してほしい。

また、今後の業績見通しが未公表であることについて、どう考えているか知りたい。

A：チーフリスクオフィサーをトップとする新型コロナウイルス対策本部を本社に設置し、グローバルに連携を取り対策を実施している。「社員及びその家族の安全確保を最優先」との基本方針の下、社内での感染防止策を徹底するとともに、サステナビリティ経営方針の下、社会的な感染拡大抑制や医療現場支援に向け、マスク自社生産や医療従事者のためのフェイスシールド生産等様々な取り組みを進めている。

来期の業績予想については、新型コロナウイルス拡大の影響により合理的な算出が困難なため予想が出せない状況である。しかしこれを改革の好機ととらえ、徹底的な改革に取り組む。IT 機器を駆使した働き方改革等による、より付加価値の高い業務へのシフトや社員の自己啓発の実施等を通じて生産性を向上させ、会社を変えていく。

【池田工場の今後の活用予定】

Q：池田工場の製品が別工場に移管されているが、今後の活用計画を知りたい。

A：池田工場では 1965 年よりラジエータ・エアコン製品を生産開始、2018 年に西尾製作所への生産移管を完了した。伝統のある工場のため、デンソーらしさを継承する場として、社員の人材育成・能力開発・地域の方との交流の場として活用する予定。デンソー魂を受け継ぐ場所としていきたい。

【今後のサプライチェーン再編】

Q：新型コロナウイルスの影響で社会が変化する中で、グローバルなサプライチェーンの仕組みをどのように再構築しようとしているのか知りたい。

A：今回の新型コロナウイルスの拡大により、部品が不足する等影響を受けた。今後は、国内外の拠点間の連携や、IT を駆使することでサプライチェーンを瞬時に追えるようなグローバル体制を構築していく。

【トヨタグループの連携強化】

Q：トヨタグループの連携・再編が進んでいるが、今後のグループ間連携の考え方を知りたい。

A：「地球を守る環境製品」と「命を守る安全製品」を広く世の中に普及させるために、トヨタグループ各社との連携を進めている。連携を進める為には、「品質の復権」と「お客様との信頼関係」が必要であり、謙虚な姿勢、感謝の気持ちで取り組んでいく。トヨタグループが一丸となり、新たなモビリティ社会の実現に向けて、取り組みを進めていくのでご支援をお願いする。

【豊田取締役就任の影響】

Q：豊田取締役が就任した一年間での、デンソーへの影響を知りたい。

A：世界の自動車産業をけん引する立場から、世界中の国や地域をより良くしたいという情熱や活力等、常に人のためという視点の高さがあり、たくさんの刺激・アドバイスを受けている。引き続き共に新たな社会の実現に向けて取り組んでいく。

【QRコードの今後の活用】

Q：QRコードは今や様々な場面で使われている。今後どのように改善・活用予定か知りたい。

A：当社で開発した QR コードは昨年 25 周年を迎え、様々な場面で使われるようになった。進化も継続しており、QR コードを使用した様々なソリューションの提供等、活用の幅を広げている。今後も世の中の安心・快適・利便に繋がるような様々な用途に活用していく。

【デンソーの農業分野関連への取り組み】

Q：安全な食を安心して手に入れることは非常に重要な課題だが、デンソーがどのような取り組みを進めているのか知りたい。

A：今回の新型コロナウイルスの広がりを受け、食への関心が高まる中、更に農業分野に力を入れて取り組もうとしている。生産分野では、当社のモノづくりの技術が生かせる農業生産の工業化の取り組みをグローバルに進めていく。また、流通面では、宅配ニーズの高まりに応え、個々の消費者向けの小型冷凍機へ注力する。更に、IT 技術を活かし、流通履歴の見える化や消費者ニーズを生産者に伝える仕組みづくりを行い、消費者起点で流通・生産を改善していく取り組みを進める。このような農業生産から流通、消費までをつなぐ仕組みづくりによって、食の安心と感動を届けることで、社会に貢献していく。

【モノづくりの視点から見た 70 周年の振り返りと今後の取り組み】

Q：改めてこの 70 年を振り返ってどうだったか、この次にかける意気込みをモノづくりの視点から知りたい。

A：当社は創業以来モノづくりを徹底的に磨き上げており、この 70 年間「モノづくりは人づくりである」という信念を受け継いでいる。この大変革期に当社が生き残りをかけ、更なる成長を遂げるために「モノづくりは人づくりである」という信念を引き続き大切にしながら、従来のノウハウと最先端技術を融合した世界にない圧倒的なモノづくり力により、社会の発展に貢献していく。